

令和3年4月14日

## 磐梯山噴火約20年後の山麓にチシマザサが繁っていた 福島県師範学校生の110年前の手稿と植物標本を分析

ご遺族から福島大学に寄贈された田口亮男（たぐちすけお）氏の資料の中に、福島県師範学校生であった当時に磐梯山調査を行い、その際に植生景観を記した手稿と採集した植物標本が含まれることがわかり、そこには噴火の約20年後の山腹にヒメシャジンなどが生育する岩礫地が広がり、山麓にチシマザサが茂っていることが記されていきました。遠藤十次郎による磐梯山山腹～山麓での植林が本格化する1910年以前の植生景観が具体的に明らかになったのは初めてで、共生システム理工学類の黒沢高秀教授らが、福島大学の紀要『福島大学地域創造』で発表しました。

磐梯山は1888年7月15日の小磐梯山の水蒸気爆発に伴い山体崩壊を起こし、北側の谷が岩屑なだれで埋められて、現在の裏磐梯の地形ができました。山体崩壊直後の磐梯山山腹～山麓には裸地が広がっていましたが、遠藤十次郎（遠藤現夢）らの植林により、現在はアカマツ林などの森林に被われ、色とりどりの湖と織りなす景観から県内有数の観光地となっています。1930年代にアカマツ林などが成立していることが生態学者達により相次いで報告されましたが、自然林ではなく遠藤十次郎らによる植林地の可能性が高いことが、最近指摘されました。遠藤十次郎らによる植林が本格化する前の磐梯山の斜面や山麓にどのような植生景観があったかについては、これまでほとんど記録がありませんでした。

石城郡大浦小学校（現在はいわき市）で校長などを勤めた田口亮男（1887～1958）は、明治から大正時代に活躍した福島県の植物を研究した最初の植物研究家の一人ですが、印刷物として残された研究成果が少ないため、その業績はほとんど知られていません。2014年にご遺族から2冊に束ねた手稿類と植物標本約2,000点が福島大学に寄贈され、手稿類は福島大学図書館で、植物標本は福島大学貴重資料保管室で保管されています。

手稿類の中に『福島県植物誌 磐梯之部』と題した手書き原稿（以下、本文）と、それに付された手書きの「磐梯山彙植物分布圖 附 戸の口原植物分布圖」（以下、地図）があります。また、植物標本の中には磐梯山で採集されたもの（以下、標本）もあります。これらを詳しく分析したところ、標本の採集年月日および本文や地図の記述から、本文や地図は田口が福島県師範学校在学中やその卒業直後であった1906～1909年に磐梯山調査を行った際の観察記録であると考えられました。本文の記述から、磐梯山の北斜面に岩礫地が広がりヒメシャジン（キキョウ科）とイワアカバナ（アカバナ科）程度しか生育していなかったこと、山麓にチシマザサ（イネ科）が繁っていたこと、桧原湖に注ぐ川の河口にカワラハハコ（キク科）が群生していたことが明らかになりました。

遠藤十次郎による磐梯山の 1910 年以前の植生景観が具体的に明らかになったのは初めてです。

標本は 18 枚で、1906 年から 1909 年に採集され、ヒメシャジンなどが含まれ、磐梯山や裏磐梯で採集されたものとしては、現在知られているものの中で最も古いものでした。多くの標本は正確に同定され、通称名や方言ではなく、当時の植物学界で使われている和名が記されていました。福島大学の前身である福島県師範学校は、多くの新種植物を発見したことで知られる田代善太郎や尾瀬の植物研究で知られる星大吉らを輩出しており、当時学生の間で活発であった植物研究の状況をうかがわせています。

田口亮男の手稿類の中には、この他にも明治から大正時代のいわき市の海岸や飯豊山など県内各地の植物について記した原稿があり、一部標本も残されています。今後、これらの原稿や標本についても順次研究を進めていく予定です。

これらの研究結果は、2021 年 2 月発行の『福島大学地域創造』第 32 巻第 2 号で発表され、現在福島大学学術機関リポジトリで pdf がダウンロード可能となっています。

論文名：田口亮男資料に基づく 1888 年噴火後の磐梯山北側斜面およびその周辺の植生景観の推定

著者：黒沢高秀（福島大学共生システム理工学類 教授）・阿部武（福島県野生動植物保護アドバイザー）・山ノ内崇志（福島大学共生システム理工学類 特任助教）

掲載雑誌、ページ：福島大学地域創造 第 32 巻第 2 号 215～232 ページ

発行年月：2021 年 2 月

福島大学学術機関リポジトリ

<http://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/>

当該論文

<https://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000005558/18-375.pdf>

本研究の一部は（株）ニチレイ研究助成を受けて福島大学磐梯朝日自然環境保全研究所および福島大学資料研究所の事業の一環として行ったものです。本研究の一部は JSPS 科研費（JP19H04383 代表：海津ゆりえ（文教大学））の助成を受けて行われました。

（お問い合わせ先）

共生システム理工学類教授 黒沢高秀

電話：024-548-8201

メール：kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp

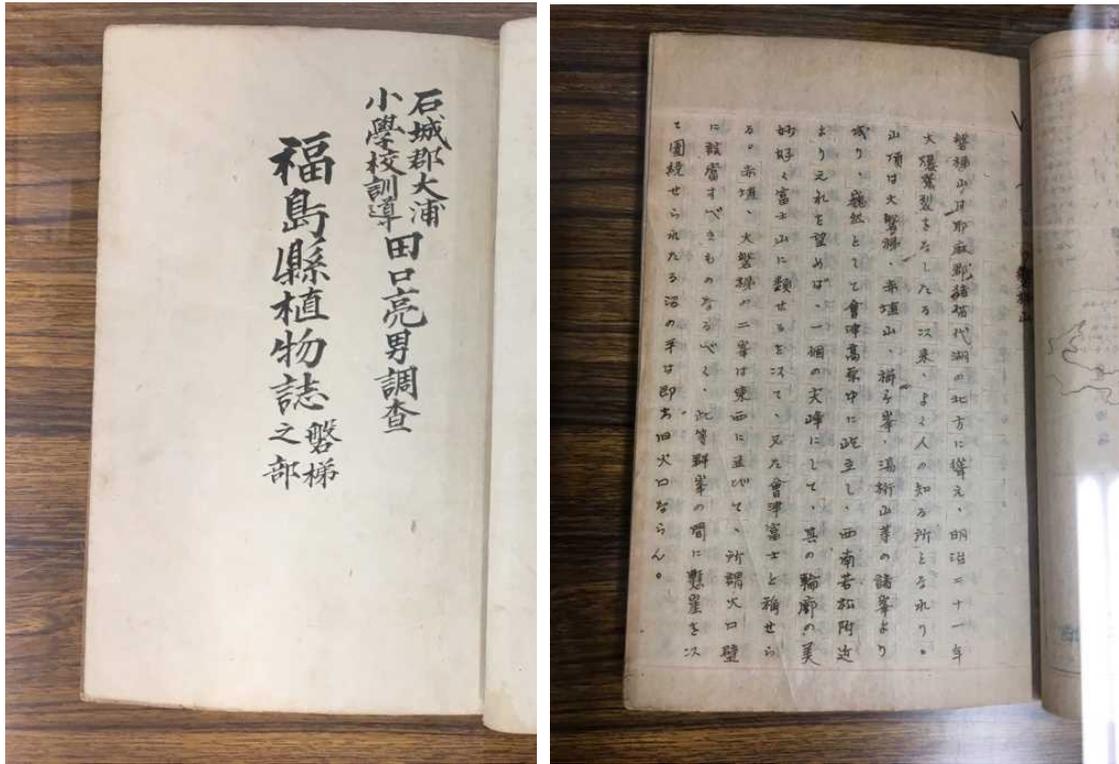


図 1. 田口亮男氏の手稿『福島縣植物誌 磐梯之部』の表紙、および原稿。



図 2. 田口亮男氏の手稿『福島縣植物誌 磐梯之部』に付された「磐梯山彙植物分布圖 附 戸の口原植物分布圖」。磐梯山周辺、猪苗代湖、赤井谷地周辺の地形と植物が記されている。



図 3. 田口亮男氏により磐梯山で採集された標本. 左：ヒメシヤジン（1906年8月6日採集）. 右：ヤマオダマキ（1906年8月7日採集）. 「皇太子殿下御覧 明治四十一年九月」の印は後の大正天皇による1908（明治41）年の福島行啓と関連があると考えられるが、現在詳細を研究中である.

図に用いた画像のダウンロード先

[https://fukushima-u.omile.jp/public/x5MMQAuExM-Av\\_4BJ6h4FoO5-eyueFKp7862OhuS8FNA](https://fukushima-u.omile.jp/public/x5MMQAuExM-Av_4BJ6h4FoO5-eyueFKp7862OhuS8FNA)